

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

〈日本のナショナリズム〉が持つ過酷さと、〈ナショナリズム〉が普遍的に持つ〈仮構的な性格〉について論じた文章。要旨は、昨年度と比べてややつかみづらかったであろう。設問数は、昨年度同様、全体で五つであった。例年通り、設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が求められている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	鵜飼哲「ナショナリズム、その〈彼方〉への隘路」の一節(『まつろわぬ者たちの祭り 日本型祝賀資本主義批判』、インパクト出版会、2020年、所収)
頻出度合 ・的中等	入試では時折出題される著者である。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約3400字。昨年より約50字増。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	政治論	(一)	記述	やや難	傍線部の「その『甘さ』と「私はまぎれもなく『日本人』だった」という内容を、第1段落から第5段落前半の説明に即して考える。
		(二)	記述	やや易	「(外)と(内)」に向けられる「日本のナショナリズム」の「残忍」さを、第5段落をふまえて説明する。
		(三)	記述	やや難	傍線部の「名」の性質を考えたらうで、それと「文字通りの『自然』」との関係を考える。
		(四)	記述	標準	第11・12段落で論じられている〈ナショナリズムが普遍的に持つ仮構性〉を前提にしつつ、本文全体で論じられている〈日本のナショナリズム〉について考える。
		(五)	記述	標準	8年連続で、三問の出題であった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。
 答案に書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・文科) 2/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『浜松中納言物語』
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所の出題は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 約940字。昨年より約10字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	物語	(一)			
		ア	記述	標準	現代語訳。
		ウ	記述	標準	現代語訳。
		キ	記述	標準	現代語訳。
		(二)	記述	やや難	和歌の説明 (下の句の大意を説明する)。
第二問 (理科)	物語	(三)	記述	標準	内容説明。
		(四)	記述	標準	理由説明 (傍線部の直前の内容に注目する)。
		(五)	記述	標準	理由説明。
		(一)			
		ア	記述	標準	現代語訳。
ウ	記述	標準	現代語訳。		
オ	記述	標準	現代語訳。		
(二)	記述	やや難	和歌の説明 (下の句の大意を説明する)。		
(三)	記述	標準	理由説明。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。また、解答を簡潔にまとめる練習や和歌の学習も必要。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・文科) 3/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年通り文理共通問題であり、今年度は昨年度同様硬質な論説文であった。設問数については昨年度同様に枝問を含めて文科6題、理科5題であった。また設問に関わる部分での送り仮名の省略は昨年度は3箇所であったが今年度は1箇所であった。例年通り答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	『呂氏春秋』
頻出度合 ・的中等	頻出。ただし当該箇所は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 193字。昨年は222字 (昨年より29字減)。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	論説	(一)			
		a	記述	やや易	現代語訳。「所以」に注意する。
		c	記述	標準	現代語訳。「不用」に注意する。
		d	記述	標準	現代語訳。「不可無」に注意する。
第三問 (理科)	論説	(二)	記述	標準	現代語訳。「人主」「不肖」の意味に注意し、第一段落の内容を的確に捉える。
		(三)	記述	標準	内容説明。設問の意図を的確に掴む。
		(四)	記述	標準	理由説明。「威」と「愛利」の関係を的確に捉える。
		(一)			
第三問 (理科)	論説	a	記述	やや易	現代語訳。「所以」に注意する。
		b	記述	標準	現代語訳。「不用」に注意する。
		c	記述	標準	現代語訳。「不可無」に注意する。
第三問 (理科)	論説	(二)	記述	標準	内容説明。設問の意図を的確に掴む。
		(三)	記述	標準	理由説明。「威」と「愛利」の関係を的確に捉える。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

数多くの著作を残したことでも知られる作曲家・武満徹によるエッセイからの出題。芸術家や文学者の随筆が使われるという傾向は、例年どおりである。きわめて難解というわけではないが、言語化しがたい世界について綴られた文章であるため、的確な表現で解答を書くことができないように感じ、もどかしい思いをした受験生も多かったかもしれない。

<本文分析>

大問番号	第四問 (文科のみ)
出典 (作者)	武満徹「影絵 (ワヤン・クリット) の鏡」。『樹の鏡、草原の鏡』(1975年 新潮社) より。後に『武満徹著作集』(2000年 新潮社) に収録。
頻出度合・的中等	入試では頻出の筆者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2620字。昨年より約970字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第四問	随筆	(一)	記述	やや難	傍線部理由説明。傍線部前後の内容をもとにして答える。傍線部次行の「大なるもの」については、第2段落の内容も踏まえたい。
		(二)	記述	標準	傍線部内容説明。「周囲の空気」の内容と、ケージの発言がそれに「ちょっとした振動をあたえた」ということを、わかりやすく説明する。
		(三)	記述	標準	傍線部内容説明。傍線部を含む段落の冒頭の一文と最後の一文の内容を軸にして、傍線部の内容を簡潔に説明する。
		(四)	記述	やや難	傍線部内容説明。影絵を演じる老人のありようと、傍線部の「何か」の内容を、わかりやすい表現で説明する。第1・第2段落の内容も踏まえておきたい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文学者・芸術家のエッセイを含むさまざまなタイプの文章に積極的にふれ、高度な読解力を身につけること。出題者の要求をしっかりと把握し、解答の方向を正確に見定め、答えるべきことをわかりやすく簡潔な表現で自在に説明しうる表現力を養う必要がある。